

未曾有の漁業被害、いまこそ特措法を！

よみがえれ！有明海・国会通信

養殖ノリ色落ち被害が深刻化、今年もまもなく終了か。

【西日本新聞2月23日朝刊】

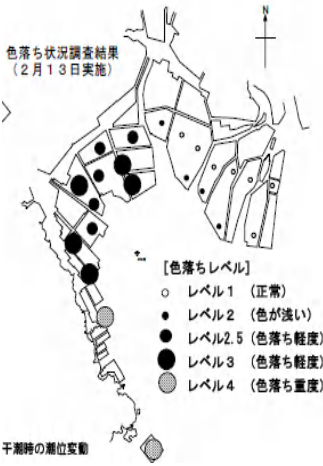
佐賀県・冬ノリ入札に2億8千万枚 赤潮で色落ち被害目立つ

県沖の有明海で採れる冬ノリの第4回入札会が22日、佐賀市の県有明海漁協であった。

出品枚数は昨年並みの2億8千万枚で、豊作だった昨年同期に比べると9250万枚落ち込んだ。

一方、赤潮による色落ち被害を受け、黄色がかったノリも目立った。

同漁協によると、県沖全域で赤潮が拡大しており、軽度・重度の違いはあるものの、色落ち被害も全域で見られるという。同漁協は「残り3回の入札会で少しでも枚数、額の上積みができるように、こまめな摘み



採りを続けたい」としている。

【佐賀新聞2月22日】

冷凍網ノリ4回目入札会 栄 養塩低下で枚数伸びず

佐賀県沖の有明海で養殖された冷凍網ノリの4回目の入札会が22日、佐賀市の県有明海漁協であった。

プランクトンの影響で全域で栄養塩が低下、曇天や低温も重なって販売枚数は豊作だった昨季の同期より約9300万枚少ない2億8100万枚にとどまった。

加工用など下位等級の相場は依然として堅調で、昨季の同時期に比べ平均単価は72銭高の8円99銭、販売額は5億6200万円減の25億2200万円だった。

秋芽を含めた累計は販売枚数13億9千万枚、販売額160億7400万円。昨季の同時期と比べ、枚数は78%、金額は79%で推移している。今後、3回の入札会を予定している。

タイラギに続き、サルボウの大量斃死も発生

【読売新聞・九州2月25日】 有明海で二枚貝サルボウ大量死、7割死威の易折も

よみがえれ！ 有明訴訟弁護団 (後藤富和)発行 092-512-1636 090-9602-0700



福岡、佐賀両県沖の有明海で、二枚貝のサルボウが大量死し、不漁が続いている。タイラギと並ぶ有明海特産の貝だが、場所によっては約7割が死んだ状態。漁業者からは「これまでになかったほどの被害。このままでは生活していけない」という声が上がっており、今月中旬、約6500人分の署名を添えて農林水産省に原因究明を要請した。

サルボウは赤貝に似た貝で缶詰などに使われ、1年を通じて取れる。大量死は昨年10月上旬、福岡県柳川市沖で見つかった。県水産海洋技術センター有明海研究所が県沖の漁場11か所を調査したところ、採取したうちの42%、72%、全体では5割以上が死んでいた。

未曾有の被害が発生している 今こそ特措法の補償が必要

【西日本新聞 2月24日】

ノリの不作訴え 早期開門求める 諫早弁護士、農水省に

諫早湾干拓事業(長崎県諫早市)の潮受け堤防排水門開門問題で、福岡高裁で国に開門を命じた判決が確定した佐賀訴訟の原告弁護士と農林水産省の9回目の協議が23日、都内の衆院議員会館であった。

原告弁護士は、有明海全域でノリの色落ち被害や養殖力キの死滅が深刻化していると指摘し「早期開門しないと有明海の生態系は耐えられない」と訴えた。

被害に対し、有明海と八代海を再生するための特別措置法に基づき損失補填するよう求め、鹿野道彦農相の来訪をあらためて要求した。

農水省側は「要求を持ち帰り、関係各課とともに検討する」と話すにとどめた。